

ぎかいだよりむらやま



写真/
村山農業高等学校又新連部
(3月撮影)

<http://www.city.murayama.lg.jp>

携帯からはコチラ→



2014
vol.81

2014年4月15日
発行

3月
定例会

育料半額に

特別会計合計 79億4,119万円

限られた財源から積極予算
基金繰入金 4億3千271万円

歳入

今年度、一般会計当初予算は、120億2千万円で、前年度に比べ2億4千万円、率にして2.0%の増となりました。

市税などの自主財源は35億4千359万円です。率にして29.5%、これに対し、地方交付税・県支出金・国庫支出金などを合わせて84億7千641万円、率にして70.5%が依存財源となっています。

歳出に見合う自主財源を確保するため、財政調整基金（貯金）から4億3千271万円を繰り入れての予算編成となりました。



子どもたちのために

条例改正のポイント

ぎろん ピクアップ

〈議第21号、村山市体育施設条例等の一部改正〉

主な内容は、市民体育館、金谷運動場、村山居合振武館、基点レクリエーションセンター、村山市民会館等の消費税率の引き上げに伴う使用料の改正を行うものです。

一部の議員から、指定管理者である体育協会やクアハウス基点などは課税の対象となるので賛成

した。

〈議第27号、村山市都市公園条例の一部改正〉

公園施設の充実に伴い入園料の見直しを行うものです。大人400円を600円に、小・中学生200円を300円とするものです。市外入園者が90%以上で、市民には無料の日を設けるとのことです。

全会一致で可決しました。



使用料が値上げになる市民体育館



鈴木健治 予算委員長に聞く!

—まず予算特別委員会
で何でしょうか?

執行部から提案された
新年度の予算の内容を、
詳細かつ具体的に議員が
審議する機関です。三つ
の分科会を設けて、より
細かく検討します。

—今、出た分科会とは
何ですか?

総務、文教厚生、産業

建設の三つの分科会があ
り、専門分野で細部にわ
たって審議します。分
科会で審議した内容を、
最終的に予算特別委員会
で取りまとめ、質疑する
のです。予算特別委員会
で採決したものを、本会
議で決定をします。

—国会と同じですね。
では今年の当初予算で特



予算特別委員長
鈴木健治 議員

議会だより編集委員会ではこの
度、予算特別委員長の鈴木議員
に、予算委員会について取材を
行い、予算の目玉やポイントに
ついて、分かりやすく説明して
いただきました。

に議論になったことは何
ですか。

志布市長が初めて編成
した予算で、「次の世代
に引き継ぐ魅力ある村山
市実現」を目指した予算
と言えるでしょう。当初
予算120億2千万円の積極
予算が組まれたことを評
価しました。ただ財源に
ついては、自主財源が少
なく地方交付税が頼りな
のです。ですから行財政
改革をもっと進めなくて
はなりません。

—主な施策はなんでし
ようか。
「第一子から保育料半
額」「雪対策経費の充実」
「ひとり親家庭への学習
支援のための子どもの自
立支援事業」「独自水源
確保のための調査費用」
「福岡地区都市再生整備
計画事業」などがありま
す。

—新しい事業が多いよ
うですが、財源はどうな
んでしょうか?

人口減少などによる市
民税や地方交付税などの
歳入の減少と、年々増加
する歳出との収支バラ
ンスを考慮して適切な予算

執行が行われることが必
要ですね。また財政調整
基金(貯金)から約4億
3千万円を繰り入れして
財源としています。今後
も厳しい財政状況が続く
と予想されます。また今
まで継続して行われてき
た事業の廃止をする場合
は、その必要性や効果な
どを十分に検証し判断し
ていただきたいと思います。

—では、各分科会では、
どんな議論がありましたか?
まず総務常任委員
会でのお話をお聞かせく
ださい。
行政委員の報酬の改正
について異論や意見が出
て関係者に対する説明の
在り方、報酬改定の実施
時期までの期間について
意見も出ました。他には
昨今、資材の高騰などに
より入札の不調があり、
入札の内容や実施時期な
ど改善を要請しました。

—それでは文教厚生常
任委員会での質疑はどう
ですか?

民生委員児童委員の成
り手不足もあり、負担軽
減や選任の方法など検討
するように要望しました。



保育に関して保育ニーズ
や少子化対応しているこ
は思えないので村山市ら
しい子育て支援や、職員
の雇用、施設の在り方な
どを検討して欲しい。消
防団の防寒衣は今冬まで
に全員分支給するように
検討を要請しました。
新規事業のGOGO村
山夢体験プランは大いに
期待するが、子どもの自
立支援事業は差別やいじ
めが生まれることの無い
ように配慮することなど、
多岐にわたる意見が出さ
れました。

—最後に産業建設常任
委員会での質疑内容をお
願います。

産業建設では、山形デ
イステイネーションキャ
ンペーンは市内観光施設
のPRの絶好の機会なの
で、行政を中心に各団体
や施設と連携し他市町村

に先駆けて情報を発信するように、また農業分野では減反の廃止が予定されているが、水田のフル活用に際し、飼料米だけでなく酒米の供給も図っていくことを要望しました。木質バイオマス利用拡大はベレットや薪の利活用や剪定枝の回収などPRに努力することなどを要望しました。

—— 結びに鈴木委員長に総括してのご意見を願います。

全体的には、未来につながる村山市を予感させるような予算だと評価していますが、これらの委員会や分科会で出された意見を十分に尊重し、市政運営に当たられるように望んでいます。

—— 今日ありがとうございます。

目玉 of 2014



保育料半額

子育て世代の負担軽減のため第一子から半額にしていきます
(保育施設に同時入所している三人目は無料になります)



除雪関連事業

地域の実情に合ったきめ細かな除雪のため様々な取り組みをします



楯岡地区の再生へ

新たな楯岡のランドデザイン計画に着手していきます

審議結果報告 (3月定例会において賛否の分かれた議案についてのみ掲載しました)

議案等の名称	議員名	議決結果	市政クラブ							青風会		日本共産党村山市議団		無会派			賛成	反対				
			井澤秋雄	長谷川元	長南誠	鈴木健治	森一弘	能登淳一	秋葉新一	柴田好美	茨木久彌	佐藤敏彦	布川淳一	須藤和幸	川田律子	中里芳之			佐藤昌昭	大山正弘	海老名幸司	
市長提出議案	予算	平成 26 年度予算 (9 件) 一般会計・国民健康保険事業・公共下水道事業 財産区・農業集落排水事業・土地区画整理事業 介護保険事業・後期高齢者医療事業・水道事業	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	×	×	○	○	議	13	2
	条例	村山市体育施設条例等の一部を改正する条例	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	×	×	○	○	議	13	2
議員提出議案	発議番号	村山市国民年金被保険者弔慰金支給条例を廃止する条例	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	×	×	○	○	議	13	2
	発議番号	TPP 交渉における重要 5 品目関税化死守を求める意見書	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	×	×	×	○	○	議	12	3
請願	請願番号	新聞購読料等への消費税軽減税率適用に関する意見書	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	×	×	○	○	議	13	2
	請願番号	TPP 交渉に関する請願	否	×	×	×	×	×	×	×	×	×	欠	×	○	○	○	×	×	議	3	12
	請願番号	政府が米の需給と価格に責任を持つ米政策の確立を求める請願	否	×	×	×	×	×	×	×	×	×	欠	×	○	○	○	×	×	議	3	12
	請願番号	特定秘密保護法の廃止を求める意見書提出を求める請願	否	×	×	×	×	×	×	×	×	×	欠	○	○	○	○	×	×	議	5	10
願	請願番号	TPP 交渉における重要 5 品目関税化死守を求める請願	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	×	×	×	○	○	議	12	3
	再請願番号	新聞の軽減税率に関する請願書	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	×	×	○	○	議	13	2

正副議長及び監査委員は会派に属しません。また、議長は可否同数の場合以外は採決に加わりません。

○=可決 ⊗=否決 ⊙=賛成 ⊗=反対 ⊖=欠席 ⊘=退席

ここが聞きたい 一般質問

Q & A

本定例会の一般質問は
3月4日・5日に9人の議員が行いました。
質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

※一般質問のQ & Aは議員の原稿をそのまま掲載しています。

Q 産業の発展は活力ある村山市づくりと考える。25年度入札で不調が多く発生している。要因は震災による物価の上昇、国の経済対策での仕量の増加と見る。不調対策はあるのか。24・25年度の落札率を伺う。

A 地産地消の考えから、市内の業者に仕事をしてほしい。26年2月まで134件入札の内14工事で19回の不調（重複あり）。業者は管理技術者が不足しており、技術者の常駐期間義務、近い現場の兼務等の緩和対策を26年度実施したい。労務単価・資機材の値上がりは承認している。設計は県で設定している単価で積算し、契約後の上昇については「単品スライド」「インフレスライド」で対応。「歩切り」は基本的に行っていない。落札率は24年度91.2%、25年度94.5%。



入札不調対策は

長南 誠議員

Q 少子化で子どもが激減している。早期に小学校の適正配置を周知するべき。また地域を踏まえた小学校の将来像、子どもの教育をどう考えるのか。

A 地域発展を考えると複式になってもあつた方がよい。23年8月適正規模・配置に関する基本方針を策定、それに基き進めている。6学級以下が継続し改築等の対応が必要な時、原則として統廃合を進める。行政区域が分割されることのないように進める。



耐震化工事入札で2回不調となった富本地域市民センター



第5次村山市総合計画は

須藤和幸議員

Q 市長は、総合計画をどのように受け止めているか。

A 将来の大まかな方向性を策定するものだと考えている。10年後の事は分からないので大体の方向性を定めるものではないかと考えている。

Q 1年先送りした理由は何か。

A 少子高齢化に対策を打たなければならぬと考えている。審議会委員も、若い人、あるいは女性の比率を高くしたい。これからの10年後、20年後確実にいるだろうという市民がどういふふう

うに考えるか聞きたいと思って、編成替えをしたという考えである。

Q 市長になって事務方にどのような指示をしたのか。

A 私は経過は聞いた。今までは前のプランの検証だということだったので検証については見た。

Q 経過について報告を受けたということだが、問題は市長の姿勢ではないのか。市長として何もなかった、放置してきたのではないかと一言わざるを得ない。市長の考え方、方向性をいち早く示すその部分が大切なのではないか。

A 質問の意味が良く分からないが政策推進課の担当は仕事をきちんとしている。



学童保育指導員の待遇改善

井澤秋雄議員

Q 学童保育は、子育て支援としても極めて重要であり、制度の改善を目指すべきである。学童保育料の支援の充実も必要でないか。

A 平成27年度から施行される子ども・子育て支援法にも自治体の事業として位置づけられる。村山市でも、子ども・子育て推進会議において、4月にも事業計画の答申が予定されている。施設の基準なども定められる。

Q 指導員の処遇改善と優秀な人材の確保について、どう考えているのか。

A 難しい問題であるが法律にも明記されていることでもあり、制度的にも改善されてくると考えている。

Q 榎岡商店街の衰退化は、放置できない。再生の秘策を問う。

A 雪対策を講ずるなど、イメージアップも必要ではないか。



児童の生活の場となる「学童保育」

A 商店街の再生は、正念場である。二、三考えているのでそれとの整合性も図りたい。専門家の意見も聞いて皆で頑張っていきたいと考えている。

Q 国の補助政策を活用するの意欲的なりーダーの育成、空き店舗の活用支援、店舗所有者支援はどう考えるか。

A 新年度から補助制度の検討に入りたい。



まちづくりは人づくり

布川 淳一 議員

Q ①村山市独自の「人財バンク」を創ることを提案する。

商工業、農業、行政、芸術文化などすべてを網羅した人財バンクを創り、得意分野を引き出して、ネットワークの構築を図るべきと考える。

②高い志を持って全市民的にまちづくりを考えられる人材を育てて行く「人財育成プロジェクト」を作っては、と言う提案をする。

③「褒めて伸ばして育てるプロジェクト」を提案する。様々な分野の市民を褒めたり顕彰する制度だ。プラス思考こそが、私たち議員が見聞きしてきた先進地に共通する心だ。

A 三つの提案は、全般的には興味のある質問だったが、各論では難しい。私は、自治体ではなく民間でやるべきだと

考える。市役所が絡むと危ない事をやるから面白い人間が集まらなくなる。話が来たら行政はバックアップをする。教育の根底には褒める事があると聞く。人材の育成には効果的だが教育委員会と話をしてみる。

「よそ者・若者・ばか者」の活用が不可欠だ。よそ者（他所からの移住者）を積極的に取り入れる政策を望む。そのために基点の古窯所有地を買い戻して移住者村の創設を望む。



中心市街地に4月末完成予定の村川家の「アクトザールM」



「いじめ」のない学校と社会を

中里 芳之 議員

Q ①いじめ防止対策推進法は、いじめを禁止し厳罰で取り締まり、道徳を押しつけるものだ。法律で定めるべきは子ども

の義務ではなく、子どもが安心して生きる権利を保障し、その権利を守るための大人社会の取り組みだ。法の問題点をどう認識しているか。②「孤独を感じる」日本の子ども

の割合は29・8%と極めて高く突出している。子どもたちは強いストレスの下、昔とは比べものにならない苛立ちを抱えている。国連から「過度に競争的な教育制度」の改善を再三勧告されているが、競争と管理の教育

がいじめの要因になっていると思わないか。また構造改革による「貧困と格差」の拡大、競争万能の考え方の浸透による人間的な連帯の弱まりと「自己責任論」の風潮など、

社会自体が「いじめ社会」ともいうべき傾向だ。親たちは競争的な教育や子育ての「自己責任論」の風潮の中で、子育てへの不安を募らせたり、点数を過度に気にするなどの傾向が生まれている。いじめの深刻化は、こうし

た社会の反映ではないか。①法の問題点については判断できないが

市はいじめ防止基本方針は、厳罰主義の立場ではない。道徳の教科化云々は別として、道徳は必要だ。②要因・背景を適切に申し上げる力はない。



雪の中で遊ぶ子どもたち



人の流れから考えた まちづくりを

森 一弘 議員

Q 第4次総合計画策定から早10年、人口の

大幅な減少・少子高齢化の加速・高校の再編等村山市の状況が大きく変わっている。

地域を見てみると、高齢世帯が増え地域活動に支障を来す所が出てきている。朝の子供達の「おはようございます」の声が減り少なくなってきた。地域の実情をどのくらい把握しているか。

A 基本は「次の世代に引き継ぐ魅力ある村山市」。人口減少を危機感として捉えていくことから出発。地域の実情を知るため、地域に向向いていき座談会をしている。河西の人口減甚大だ、危機感と捉え、工・商業も

を含めた河西の開発は必要。人の流れから考えたまちづくりが必要と考える。観光施設・工業団地・商業施設からの動線、近未来高速道路の開通と3つのインターチェンジが出来る、そこは全国からの窓口になる。人の流れを的確につかみ誘

導し、市の発展につなげていく政策が求められる。5総に期待している。

Q まちづくりが必要と考える。観光施設・工業団地・商業施設からの動線、近未来高速道路の開通と3つのインターチェンジが出来る、そこは全国からの窓口になる。人の流れを的確につかみ誘

A 村山の良い所を伸ばした政策。動線を考えたまちづくりをしていくI・Cからのアクセスを考えた道路が必要と考

えてる。



土地の提供でできた道路の隅切り



保育園・児童センター・小学校の 給食の民間委託は中止すべき

川田 律子 議員

Q 行財政改革の一環として小学校・保育園・児童センターの給食事業の民間委託を検討するとある。先行して保育園の

検討とあるが対象となる保育園は。また給食に携わっている職員・臨時・パート職員の雇用や保護者への周知はどのように

今後小学校・児童センターの給食についての考え方は。

A 平成27年度から「しろはと」「新町」の2保育園で民間委託をする予定である。小学校や児童センターについても保育園の動きをみながら食の安全や地元産食材の使用などに十分配慮して順次民間委託を検討していきたい。

Q 市は民間委託の理由の一つに職員不足を挙げている

が、この間、職員の補充をしておらず、不足は当然である。現場で働く人や保護者の意見も聞くべきであると思うが。

Q 行政委員の報酬の見直しについて問う。報酬削減の理由や経緯が説明不足で伝わっていないのでは。説明から実施の期間が性急すぎるので

は。削減は元に戻し、時間をかけて検討すべきである。

A 行政委員の仕事が大変なのはわかる。それで仕事をはっきりさせた経緯がある。集中改革プランで26年度に削減すると明記されている。これらを考えて今やるしかないかと決断した。



今日のデザートは村山産のおいしいさくらんぼ



市内保育所の再編・民営化は

長谷川 元 議員



全ては子どもたちのために

い。認定こども園や病後児保育など合わせて進めるべきと考えるが。

A 今後検討していく。

Q 楯岡地区内の都市計画は策定後50年が経ったがほとんど進捗していない。狭隘地区解消は防災上からも必要。第2期まちづくり交付金事業など今後の考え方は。

A 大学の研究室など、専門的な人にグランドデザインについて協力してもらおうつもりだ。代替住宅地も確保して道路整備は行っていきたい。

Q 本来の意味である民間活力導入が進んでいるとは言えない指定管理者制度だが、現在行っているものの見直し点検討の時期に来ているのでは。あり方も含めて今後検討していきたい。

Q 村山市次世代育成支援対策行動計画（後期計画）には、保育園の再編、特色ある施設運営を図るとともに適切な人員配置と民間委託を検討する、とある。検証を終えた今、今後の課題としてどのように捉えているのか。

A 平成30年までに正職員の保育士は33人から16人へと激減する。今後速やかに対応しなければならず、効率的な運営と合わせて検討しなければならぬと考える。

Q 行財政改革の視点からも適正化や雇用などを考えなくてはならぬ



新・米政策への対応を問う

能登淳一 議員

Q 政府は新たな米政策として、中間管理機構による農地の集積、米の直接支払交付金、日本型直接支払、経営安定化対策の新制度に移行するとしている。特に日本型直接支払部分の受け皿、さらには水田フル活用作物として今後とも位置づけられる。大豆・そばのゲタ対策に村山市はどう取り組むのか。

A 先般、村山市地域農業再生協議会でも議論になり、まずは平成26年産の米の作付配分を行ったところである。日本型直接支払部分の受け皿については市内、各改良区との調整については、進んでいると了解している。さらに、経営安定化対策の交付金としてのゲタ対策部分については、そば街道もあり、県の産地交付金と合わせ、そばは前年比1千円増額となる。

Q 政府の景況に対する発表は、アベノミクスの効果が波及し、全体的に好感を感じ取ることが出来るとしているが、村山市においては、多少濃淡はあるものの、実態として好感感はない。村山市の新たな、工業振興策にどう取り組むのか。

A これまでも、企業情報交換会、見本市への参加等受注増加に向け努力してきた。今後においても、コーディネートターの増員も含め努力していく。

Q 消雪道路の長寿命化についてどう考えるか。

A その方向で、メンテナンス等に入れ



村山の名産『そば』

百問は一見にしかず!!

よりよい行政のための 視察 レポート

認定こども園ってなに？

文教厚生常任委員会



「かほく あいこども園」の視察

2月18日文教厚生常任委員会と担当福祉事務所職員と共に視察研修を行いました。河北町にある認定こども園である「かほくあいこども園」では設立までの経緯や現状について担当者より説明を受けました。行財政改革の一環から町内5ヶ所の保育所を2ヶ所へ再編し、国で推奨している認定こども園の設置を含め平成19年に検討をはじめ、当初公設民営を目指してスタートしたものの、財源確保等の関係から民設民営による幼保連携型の認

定こども園となりました。

総事業費は6億6千万円で半額を山形県安心こども基金より拠出し、開設に合わせて子育て支援センターを設置、病後児保育施設も併設しています。法人との十分な連携のために、保護者・町・法人との三者協議会の設置や、4名の町職員の派遣、法人による運営協議会の設置などを行っているようです。また、幼保の保育料・保育時間が同一であるなどの特徴もあり、今後の村山市の保育所のあり方について非常に参考になる視察となりました。続いて楯岡笛田にある総合福祉支援センター「わっしょい」放課後等デイサービス「たいよう」に向かい、開設から1年程の現状について視察を行いました。特別支援校からの利用者などニーズが高い事業でもあり今後適正運営に努力して頂くよう要望しました。

産業建設常任委員会

管内視察



除雪状況の視察

2月21日管内除雪状況視察。市内4ヶ所の雪捨て場、徳内シーボルトライオン・園芸試験場村山ほ場跡地・金谷運動広場駐車場・基点イベント広場いづれも搬入量は昨冬より6割減との報告。春先の粉じん処理の対策を望むものであります。今冬の積雪量は少ないといわれておりましたが、山の内地区は3m近くの積雪があり、地域差を実感。3月13日住民より悪臭対策の要望書が出ている村山コンポストリサイクルセンター視察。なお一層の臭気対策と環境保全協定書の遵守を訴えました。

市政クラブ 要望活動



総務省での要望

1月20日市政クラブは、総務省、文部科学省、国土交通省への要望活動を行い、総務省に対する要望は地方交付税減額が取りざたされているが、前年並への対応策について、及び特別交付税の措置について要望しました。文部科学省へは、廃校利活用現状について意見交換を行い、楯岡高校跡地への助言も頂きました。国土交通省に対しては、東北中央自動車道工事の促進と前年度並み予算の確保について要望しました。その後、意見交換を行いパーキング、ガソリンスタンドの設置のあり方、さらには村山市のPR看板設置について要望を行いました。

青風会 行政視察

1月27～29日まで東京都の代官山蔦屋書店と広島県呉市を視察しました。蔦屋書店は武雄市図書館を指定管理で運営しており、内容について担当者から話を伺いました。呉市ではジェネリック医薬品の差額通知を行っています。他にも医薬品の費用対効果等も行い医療費削減に取り組んでいます。また海上自衛隊呉基地も視察しました。



代官山蔦屋書店で研修



ジェネリック医薬品の有効活用の研修（広島県呉市）

市民の声

草木庵店主



松田節子さん(行川)

る季節であると同時に、農作業の忙しい時期の始まりだという心ひきしまる季節でもあります。

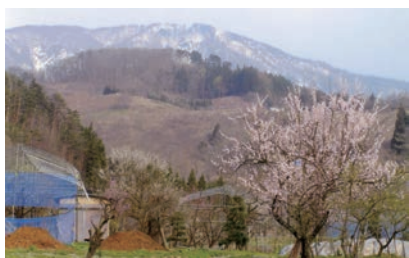
そして、春といえば、食いしんぼうの私の頭にまっ先に思い浮かぶのが、ふきのとう、タラの芽、こごみ、うど等の山菜です。ほろ苦い、くせのある山菜たち。きつと、早く春の陽ざしを浴びたいと、雪の下でムズムズしていることでしょう。

ふと、思う時があります。私た

ちの祖先は、どうしてここに根をおろしたのか。昔はもっと過酷であつたらう、冬の雪に閉ざされた生活。しかし、それに勝る豊かな自然—きれいな水、山、川、大地がここにはあり、それらが命を育てくれるからなのです。

山菜に始まり、多種多様な野菜や果物、村山市は食彩王国です。こんな郷土を私は誇りに思うと共に、いつまでも自然豊かであれと願います。

待ちに待った春です。私にとって春は、心おどるわくわくす



早春の甌岳



春といえばふきのとう



自然豊かな葉山

市民のみなさんへ

議会報告会のご案内

平成26年3月の定例議会での新年度予算内容等について、右の日程にて議会報告会を開催いたします。多数の方々でお越しください。

(会場においでの際は、この議会だよりをご持参ください)

1、平成26年4月23日(水) 午後7時より

- 大倉地域市民センター 大会議室
- 戸沢地域市民センター コミュニティホール

2、平成26年4月24日(木) 午後7時より

- 袖崎地域市民センター 集会室
- 大高根地域市民センター 研修室

第3回

議会だよりクイズ <当選者決定>

Q1：リニューアルオープンしたクアハウス基点の温泉利用者数は昨年11月16日現在で何万人だったのか？ **正解 10万人**

Q2：平成25年度の除雪費(総額)としての予算は？ **正解 3億3千万円**
正解者の中から当選者3名の方にクアハウス基点入浴券プレゼントいたしました。

今回は紙面の都合からクイズは、おやすみさせていただきます。

《議会だより編集委員会》

委員長 大山 正弘
副委員長 川田 律子
委員 秋葉 新一
委員 能登 淳一
委員 布川 淳一
委員 長谷川 元
委員 井沢 秋雄